

## 第1回総合計画審議会 議事要点録

I 日 時 平成30年9月5日（水曜日）15時00分～17時00分

II 場 所 長浜市役所3階 特別会議室（長浜市八幡東町632番地）

III 出席者 石井良一委員（会長） 松島三兒委員（副会長）  
伊藤俊三委員 廣部恭子委員 松居弘次委員  
鈴木厚志委員 吉川兵衛委員 平井和子委員  
井関真弓委員 大橋延行委員 中西恭子委員  
福島孝夫委員  
【オブザーバー】 小西靖則氏  
【事務局】 古田総合政策部長、横尾総合政策課長、柴田課長代理、  
服部主幹、山田主査、田中主事

### IV 内 容

#### 1 開会

事務局 <開会のあいさつ>

#### 2 市長あいさつ

市 長 委員の皆さん、本日はお忙しい中、長浜市総合計画審議会に集まってお越しいただきありがとうございます。

さて、皆さんには長浜市総合計画審議会委員ということで次年度の計画改定に向けて意見を出してもらい、良い長浜市総合計画をつくっていきたく思いますので、よろしくをお願いします。

長浜市総合計画は、平成29年3月に策定いたしました。この総合計画の目指すまちの姿を実現するため、『チャレンジ・アンド・クリエイション、挑戦と創造』という大きな旗を掲げています。これは、子どもからお年寄りまで、誰もが新たな感性で未来への1歩を踏み出すことができるまちをつくっていかうという思いを込めたものです。

この長浜市総合計画は、10年後のまちの姿を目指し、10年を2年、4年、4年の3期に分けて推進しています。今回、最初の2年が終わり、次の4年間となる第2期の計画を策定することになりますが、昨今は異常気象、あるいはAI等の技術開発、また人々の働き方のあり方や労働環境等で、これまでの常識や価値観が変わり、社会は大きく動いています。こうした激動する社会の荒波に立ち向かうためには、時代の変化を的確に捉え、目指すべき未来の方向性を示すことが大事です。

これまで、皆さま方には、それぞれの立場でまちづくりや地域活動に長く尽力

いただいているので、今後、どのような視点や考え方でまちづくりを進めればいいのかという議論をしてもらい、来年度からの施策に反映したいと思います。極めて短期間ですが、活発で風通しよく議論いただくことをお願いし、ごあいさつとさせていただきます。何かとお世話になりますが、よろしくお願いします。

### 3 委員委嘱及び委員紹介

＜委員及び事務局の紹介＞

### 4 会長及び副会長の互選

事務局 本来は委員の互選で定めるところですが、従前からの審議の経過もあり、事務局側の提案をもって就任依頼をさせていただきたいと存じます。会長には滋賀大学教授の石井良一様、副会長には長浜バイオ大学教授の松島三兒様をお願いします。

委員 <異議なし>

### 5 会長あいさつ

会長 <会長のあいさつ>

### 6 総合計画審議会の役割

事務局 <資料（資料3参照）>に基づき説明

この総合計画審議会では、総合計画第2期の基本計画の策定と別途の国土利用計画の改定をあわせて行うこととして、この二つの計画の策定および改定内容について審議をお願いします。

委員 今年の12月までに全てを終わらせなくてははいませんが、スケジュールとして問題ありませんか。

事務局 懇話会と並行し議会への報告を実施しながら行いますので、スケジュールはタイトです。しかし、必ずしも日程にとられるものではなく、若干日程が変更（後ろ倒し）になっても、しっかりとした議論をしていきたいと思っています。

### 7 議事

(1) 総合計画第2期基本計画の策定ポイントについて

事務局 <資料説明（資料4-1、4-2参照）>

重点プロジェクトの提案については次回行います。

会長 基本計画にはそれぞれ指標がありますが、来年度の計画では最新のデータにな

っているということによろしいですか。

事務局 その時点における最新データに修正を行います。

会長 前回の策定から2年しかたっておらず、施策自体も進行中のものが多い中、時点修正を行ったということだと思います。

しかしながら、当初の予想より人口減少が加速し人口流出はさらに増えて、一向にとどまるところがないのが長浜市の現状です。

基本計画に位置付けていないと事業化できませんので、この機会にここは強化してほしい、ここは新たに取り組んでほしいということがあれば、ぜひ意見をお願いします。

委員 市民自治に関して、新しく『団体法人化の促進』とありますが、法人は、一般社団、一般財団、NPO、地縁法人等、いろいろありますが、どのようなものを想定していますか。

事務局 法人の形態について特定はしておりませんが、法人化しようとしている団体は地域づくり協議会を想定しています。組織の規模によって法人形態を検討します。

また、地域づくり協議会が、NPO法人として立ち上げようとした場合、ノウハウがないので、役所に手伝ってほしいと言われることがあります。過去には、初期投資について一定の補助があったこともありますが、そのような支援を含めて法人化の促進を考えていきたいと思います。

委員 法人化というと、設立した役員がずっと継続して役員をする等、定期的に役員の入替わりが行われない懸念があります。地域づくり協議会だと、メンバーがリフレッシュしていく必要もあるかと思いますので、そこは注意がいると思います。

委員 地域での人権学習会について、従来の自治会等の人権学習会では、学識者等に来てもらっても、なかなか参加するメンバーが少ないと聞いていました。最近、その形態が変わってきて、子どもたちも含めたお話し会等、いろいろな形で、地域の方が広く参加できる学習会が広まっていると聞いています。実際に私もその学習会に参加したことがありますが、現状はどのような人権学習をしていますか。

事務局 実施状況としては、市内の自治会は425ありますが、学習会はほぼ100%開催されています。

実施方法については、例えば、夏祭りで子どもが集まったときに子ども向けの人権に関する話をしたり、また、特定のNPOに頼んで人形劇や紙芝居をしたり、中には、大学の先生を呼んで人権に関するしっかりと話をしたりとさまざまで、それぞれの自治会に合った内容でやっていると思います。

ただ、形骸化している部分もありますので、専門の担当者だけでなく、私たちのような行政職員が地域に出向くようにしています。地域の役員と話す中で、内容にこだわる部分を少なめにして、できるだけ多くの人が参加するような方策を取

ってもらっています。

会 長 『市政参画の促進』で、市の提案でクラウドファンディングの話が出ていますが、一般的にクラウドファンディングといっても、市が関わることはあまりありません。これがあえてここに書いてあるのは、新しい試みとして、長浜市としてクラウドファンディングをアレンジメントしていこうという認識でいいですか。

事 務 局 今年の事業として具体的に4つの事業をクラウドファンディングで取り組もうと進めています。例えば、自然関係の取組として、竹生島のタブノキ林の保全事業や、長浜ものがたり大賞という長浜を舞台にした漫画やシナリオを募集する事業をしています。また、木之本町古橋ではこだかみ茶というお茶を特産品にしようということで頑張ってもらっています。

このような事業を、市民の皆さんの力で盛り上げ、成立させていこうとしています。こうした取組は、単にお金を調達するためというより、事業を盛り上げてPR力を高めるといふ狙いもあります。

委 員 学校教育について、ICT技術は学習指導要領にも実際に載っているの、これはやらなければいけないものと認識しています。

小中一貫教育に関しては、余呉から始まり、もう1カ所も予定していることは私も聞いています。正直なところ、これがいいか悪いかは、これから進んでいく中で見ていかなければいけないと思います。必ずしも小中一貫がいいわけではないと思いますが、良し悪しについては地域性の問題が非常に強いところを私も感じています。

実は、私の子どもが通学している長浜小学校、長浜西中学校は地理的にすぐ隣なので、小中一貫校のようなものと保護者の中で話しています。そこで、私が感じていることが1点あります。

中学を卒業した段階で高校へ進学しますが、今まで9年間同じ顔しか見てこなかった子どもたちが、違う顔がたくさんいる中に急に入ります。かつては学区制があったので、公立なら地域の高校への進学しかありませんでした。今は全県一区になったので、いろいろな所から学生が来て、非常に戸惑いを覚えるという声をたくさん聞きます。これは他の学校でも同じかもしれませんが、その点で非常に苦労しているようです。

カリキュラムを進めていく上では、小中一貫は非常にメリットが大きいとも聞きますが、その他について問題が無いかどうか、今後検討をしてほしいと考えています。

また、後の話に出てくるかもしれませんが、若者の定着や街に帰ってくることにしても、まず魅力ある働く場がないことが大きいことが一つです。

都市部の大学ではなく、地方の大学に進学した子どもたちが、その地方の企業に就職する率も非常に高まっています。長浜市も同じですが、地域の中小企業も非常に頑張っています。そういう努力をしている所は、長浜市だけでなく全国に

たくさんあります。そういうことから、長浜市内に大学がもう1校あってもいいと常々考えていました。実際、私も時々若い子たちが、一部上場の大企業の工場が長浜市内には幾つもありその他の会社も多くある中で、大学が1校しかないのはなぜかと言っているのを聞きます。昨年も数人から聞きました。

大学を卒業する段階で、どこで働くかということを考えると、慣れ親しんだ地域ということもあると思います。企業は採用活動の中で大学にも非常に活発に接触するので、そういう影響もあるのかもしれませんが、そういったこともどこかで含んでおいてほしいと思います。

委員 『図書館サービスの向上』について、現在、長浜市内の全ての小中学校に図書館司書が配置されています。今まで閉鎖的だった学校の図書館も開放的になり、子どもたちがたくさん本を借りにくるようになり、読書数もかなり上がりますが、公立の図書館と学校図書館がもっと連携するといいと思います。ICTがいろいろありましたが、学校図書館と公立図書館のネットワークをお願いしたいと思いません。

事務局 どのような対応ができるか、ご意見として教育委員会や図書館への問題提起として報告させていただきます。

委員 教育・文化のところ、若い人たちが長浜に魅力を感じるかというところに問題を感じます。産業はもちろんですが、教育や文化など特に高校生から見ると刺激がないという話も聞きます。

そういう中で、市民満足度調査の結果は全年齢のデータを見るとならされた数字になりますが、若年層ではどういう結果が出ているのか、年齢構成別のデータはどうでしょうか。

事務局 若い世代については10%程度しか回答が得られず、はっきりとした傾向が出ているわけではありませんが、個別意見では、例えば映画館が欲しいというものがありました。確かに、長浜市には遊ぶところがないので、そういうものをもっと造ってほしいということと、先ほどもあった大学の関係、就職の関係が割と特出した内容となっています。

委員 長浜北商工会の青年部は、年に一度職業体験ということで、イベントで自分の企業の紹介をしています。長浜北商工会だけでなく、商工会議所、ビジネスサポート協議会で地域の企業を紹介しながら、子どもたちにいろいろな目標、目的を見つけてもらう取組をしています。そういったものづくりや勉強を、小学校の頃から体験すれば、子どもたちも地元の企業に愛着がわき、就職で長浜市に戻ってくるのではないかと思いました。イベントにすると1日で終わってしまうので、小学校の中でやっていけたらいいと思います。

小学校給食費の無料化はすごくいいことですが、それが一部では常態化していて、逆に高校に行ったらなぜ弁当を作らなければいけないのかとか、高校も給食

にして欲しいという方もおられます。最初は皆さん喜んでいますが、これだけ税負担をして子どもたちのために出しているということをもっとPRしたほうが、当たり前と捉えられないと思いました。

委員

生涯学習文化課の子どもたちに対する支援施策ですが、今までは学校でも、小学生は小学生だけ、高校生は高校生だけとぶつ切りでしたが、長浜市民を育てるのだからそれではいけないということで、子どもから大学生までが一緒になって、長浜の魅力を探したりしています。

担当課もそういう取組を随分していただいております。基本計画に書かれていることを見ると、かなり前進しているようにも感じます。ただ、この活動の中で、生涯学習を担うためのサポートと市民が自分たちでやろうと意欲を出すための起爆剤が何か要るのではないかとすることが問題となっているように思われます。前は公民館がしていた社会教育的なことが欠落しがちなので、ある程度市民に理解してもらう機会を設ける必要があるのではないかと思います。

また、成婚率が本当に低いです。自分たちの住む環境の中にも独身者が多いです。その人たちが将来的には独居老人になってしまいます。今は親の年金やいろいろなもので生活が成り立っていますが、両親を見送った後で一人暮らしになる人が、長浜には本当にたくさんいます。

私個人としても、結婚相談員として出会いの場をできるだけつくりたいと思いますが、反面、なぜ一番個人的な結婚にまで行政が介入するのかと言われることもあります。でも、一応、ここに『やさしいまち長浜』と記述されています。子どもが生まれないと長浜市民がいなくなります。いくら立派な施策をしている市でもそうです。

今は家族にもいろいろな定義がありますが、結婚という一つの形があれば、幼稚園、小学校、中学校とずっと続いて、長浜市としての大きな人口形成にも役立つと思って頑張っています。

委員

福祉という面では、子どもの虐待のことも取り上げられていますが、親の視点が無いのが気になります。親が学ぶと言っているかわかりませんが、親としてどうあるべきか、親としてどう子どもを育てていくかという視点がありません。今の親はとても忙しく、幼稚園や保育園、あるいは学校に全てを任せている家庭もあると思いますし、勉強しましょうと言ってもなかなか参加してくれませんが、親としての学びの場や仕組みづくりも大切だと感じました。

委員

高齢者サービス供給体制の整備についてですが、配食サービス等いろいろなサービスがありますが、市街地の業者が対応することもあり、西浅井の菅浦までだと1時間以上かかるので、配食サービスを断られます。西浅井地域には、こんな遠い所までわざわざ申し訳ないといって利用しない人も多いです。ですから、西浅井や余呉、木之本の杉野、浅井の高山、野瀬でも均一なサービスを提供できる形にしてほしいと思います。

また、70歳以上の高齢者は運転をしないとすると、その場合、コミュニティバスなどの整備が必要になると思います。今年から西浅井ではおでかけワゴンが整備されますが、西浅井地域づくり協議会や連合自治会できちんと議論されていないように思います。ですから、すごく利便性が低いです。例えば、おでかけワゴンが最初に配車される時間を聞くと、5時58分発ということで驚きました。高齢者が5時58分のワゴンに乗って病院に行くとは到底考えられません。北のほうだと雪が降ったときに、除雪もできないのに菅浦に5時58分に配車できるかという問題もあります。一生懸命考えているのはよく分かりますが、実情に即していないところもあるかと思っています。

事務局 コミュニティバス等の利用促進については、今回の修正で『地域の実情に応じて、地域住民が主体となった地域運行の整備を促進します。』ということで対応させていただきたいと考えています。

委員 『就業・機会の拡充』として、森林整備や森林マッチングセンター等々行政もいろいろとやってもらっていると聞いています。ただ、中にはまだ不十分だという意見も多々あるので、その辺も盛り込んでほしいと思います。

特に、就労機会の拡充と企業誘致の推進ですが、企業誘致を推進しても働く人がいないとも聞きますので、移住・定住や、若者の定住促進を図っていかねばいけないと考えています。

全国でも、滋賀県でもやっているし、佐賀県や高知県などでは、それぞれが県単位で移住・定住のプロモーションやイベントをよくやっています。昨年、滋賀県と長浜、彦根で移住・定住イベントやっていて、私もそれを見に行きましたが、ほとんど地元の同窓生ばかりが集まった県人会のようなものになっていました。これは、高知県や佐賀県に行ったときにも感じました。滋賀や高知では、移住・定住のイベントをしても、地元の人しか集まってきません。それなら、長浜や、長浜が姉妹提携している都市と連携する、もしくは約90の自治体が入っている国民宿舎協会と合同で、自治体が移住・定住のイベントをすると全国の人が網羅できるので、興味を持っている人が来ると思います。

移住・定住希望者に対して、宿泊業を利用してもいいかと考えています。一昨年、リゾート派遣で来た若いカップルが、3カ月ぐらい働いていましたが、休みの間に長浜市内を回り、いい所だから住みたいと言っていました。私たちも、小学校給食費の無料化など、いい所だといってPRしたところ、木之本の空き家に住んでいます。

そのときに、どういう企業で働きたいかと聞いて、いくつかの企業を紹介したところ、市内企業に就職し、結婚もして長浜市民として暮らしています。

そういったことをうまく制度化していけば、ミスマッチングもなくなっていくと思います。試しに宿泊業などで就業してもらい、そこで2カ月、3カ月バイトをしたうえで判断すれば、うまくマッチングできると思います。

副 会 長 産業という面では、地域おこし協力隊の人たちは長浜だけでコトを完結するのではなく、東京など都市部とビジネスのつながりを持つ活動をされており、こういう関係人口を増やすことも重要なことと思います。既存の産業を強化することももちろん大事ですが、産業構造そのものの新しい転換を図っていくことも大事です。これからは、一気に40人、50人と雇える産業ではなく、もっと小規模で小回りの利く産業が幾つも起きてくると思います。特に長浜はデザイン関係の人も多いので、デザインやIT分野を含めた産業の振興を図り、しかも長浜を拠点の一つと考えて、グローバルな視点でビジネスを仕掛ける人を増やすことを考えていかなければいけないと思います。

施策の中にはその辺がうまく入っていないように感じます。今回の関係人口も、魅力の発信だけでは増えないと思うので、拠点での活動を通じて、長浜に来る人が増えたり、行き来したりすることを考えていかなければいけないと思います。せっかくなので、そのあたりの視点も入れてほしいと思います。

事 務 局 関係人口の話ですが、具体的にどういった形でビジネスにつなげていくかという視点で取り組んでいます。今の提案をもう少し踏み込んだ形で記載したいと思います。

『首都圏を中心とした都市と人と流れの生み出し、さまざまな関わりを持つ関係人口の拡大を図ります』とあり、その展開として、ビジネス的なマッチング等も加えて記載したいと思います。

会 長 今はITさえつながっていれば、パソコン一つでどこでも誰でも仕事ができるので、田舎型のサテライトオフィスを整備することも考えるといいと思います。

## (2) 国土利用計画の改定ポイントについて

事務局 <資料(資料5参照)>に基づき説明

委 員 小谷城SIC周辺での事業について、庁内で十分な議論がされて課題が整理されていないのではと思います。現実味のある姿が必要で、費用がかかるならそれだけの体制でやらないと空想で終わるので、十分検討してほしいと思います。

もう一点は、本当に予算が確保できることが前提条件として議論していますが、現実にはそうでないこともあると思います。議論した中でどう反映するかです。これは良い、あれは良いと並べて充実するのはいいですが、現実的に予算化できないということが生じています。

市民の目線は非常に大切ですが、現実には、市の財政は火の車であり、限られた財源のなかで、そこはしっかりとメリハリをつけながらやってもらわないといけません。

重要度や難易度もあり、そういう見方で実行に移していかなければならないと思っています。やりたいけれどできないという現実の壁があるので、そこをしっかりと考えてほしいと思います。

農業に関してですが、労働力の確保が最大の課題です。必要な人材が必要な時期に確保できない状況です。将来の担い手を確保するためのサポートセンターの設立をぜひお願いしたいと思います。

会長 実際の予算が現れるのは実施計画で、今のところは、委員の方に意見という形で意見を出してもらっています。また農業の担い手不足は大切な課題ですので、しっかり検討してほしいと思います。

委員 もしこれからの長浜市の農業が駄目だというなら、余呉に映画の村をつくってはどうかと思います。映画を撮りにきたときに、農業をやっている方が何らかの関わり方をすれば、何とか潤うのではないかととも思います。

また、森林の開発をするなら、例えば、長浜を紙すきとガラスの街にすれば、それで結構潤う形ができるのではないかというような考えを持っています。

委員 長浜のまちなかに、岐阜からやってきて、自分で小さい店をしている人がいます。子どものときに長浜でガラス体験をして、ガラスがすごく好きになり、いったん違う所に就職したけれど、やはりガラスを学びたいといって専門の大学に行き、ガラスをつくるなら長浜がいいということで外から入ってきた人もいます。

小学生の子が長浜のいいところを授業の一環として体験すれば、その子どもたちが大きくなったときに、外の大学に行って、長浜にはこういうものがあるという発信をしてくれます。そうすると、遠い所の子が、長浜に行ってみたいと興味を持ってくると、長浜に人が集まるとも思います。

身近なことで長浜の良さをみんなに知ってもらうことも大事だと思うので、そういうことを皆さんと考えていきたいと思います。

委員 教育に関してですが、この間、学力テストの結果で、滋賀県がついに全国最低になったそうです。滋賀県は全員が受けていますが、他県では優秀な学校の子ばかりが受けて、全員ではなかったりしているようですが。ただ、滋賀県の平均点より長浜の平均点が低いと聞いて、もう少し基礎学力の充実を至急、前面に出したほうがいいと思います。

委員 先日も台風の被害がありましたが、木之本で賤ヶ岳トンネルが通っていて、そこがあつてこそ琵琶湖1周ができますが、この間の大雨で土砂崩れがありました。余呉のほうに抜ける黒田という集落がありますが、その崖も崩れて片側1車線になっています。今回の災害では、国道8号線にトラックがずっと止まったままの状況が続きました。そのときに、木之本インターから敦賀インターまでを無料通行としてくれました。それでトラックが全部高速道路に入って何とか動きました。地図を見たら分かると思いますが、本当に賤ヶ岳トンネルしかなく、さらにかなり老朽化しています。今、その手前の橋の架け替え工事もしていて、その影響でひどく渋滞しています。どうしても南のほうばかりに視点が行きますが、少

し北を見ると、本当に大事なトンネルがあります。別に、山を越えて道を造れという話ではありませんが、北部地域の動脈をしっかりと確保しておかないといけないと思います。

事務局 防災的には道路の複線化が考えられます。その中で、余呉から木之本に抜ける道、木之本の杉本から上丹生に抜ける道を整備しようという予定があります。上丹生まで抜けたら、ウッディパル余呉の前を通って、余呉湖を通り、川並からトンネルをつくって、西浅井の塩津浜につなげる道を複線化ルートとして整備しようとしています。

## 8 閉会

事務局 <総合政策部長よりあいさつ>

以上